

皆さんこんにちは。地区増強拡大 宇尾委員長、ようこそお越しいただきました。
ごゆっくりとお過ごしください。

先日、2018年のノーベル生理学・医学賞を京都大学の本庶 佑 特別教授に授与すると発表がありました。日本のノーベル賞受賞は26人目です。

〈1984年 ロサンゼルスオリンピック〉

この大会は1セントも税金を使わずに行われた。
スタジアムも1932年ロサンゼルスオリンピック時のものを使っている。それまでの大会は、スタジアムの建設や環境整備などで開催都市が多額の費用を負担し、赤字続きで大きなダメージを残したこともあり、1984年大会の開催都市立候補はロサンゼルス市だけとオリンピック開催は不人気だった。

税金を使わなければ、政治介入は阻止できると南カリフォルニアオリンピック委員会は考えたのである。

《大会委員長はピーター・ユベロス》

開催するために必要な費用は、以下の4本柱を立てて賄った。

テレビ放映料

テレビ放映権は、それまでの常識を超える金額を最低価格として提示、アメリカ4大ネットワークのうちで一番高い金額を示したABCと約450億円で契約。放映権料を前払いとして、利益を稼ぐ徹底ぶりだった。

スポンサー協賛金

それまでの多くのスポンサー企業がマークを使用し、多種多様な活動をしたが、スポンサー数があまりにも多すぎたので、メリットが半減していると判断し、スポンサーは1業種1社、合計で30社と数を減らして価値を高めた。ロサンゼルス五輪のマークを自由に使える、というのが条件だった。コカコーラとペプシが激しいスポンサー争いを演じ、他業種もスポンサーに次々に名乗りを上げ、高額な協賛金が集まった。

入場料収入

記念グッズの売上

かくして最終的にはこの大会は、およそ400億円の黒字で終了かつ成功し、その全額がアメリカの青少年の振興とスポーツのために寄付された。この大会の成功が、その後の五輪に影響を与える商業主義の発端となった。



1964年東京オリンピック聖火

